NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会

NACS-J自然観察指導員大阪連絡会の活動

（1）自然観察指導員講習会開催
（2）フォローアップ研修会
（3）自然観察会の支援
（4）交流を兼ねた観察会の実施
（5）情報誌「じねんじょレターズ」の発行
（6）ホームページの運用
（7）会員間の情報交換を促す集まり、発信

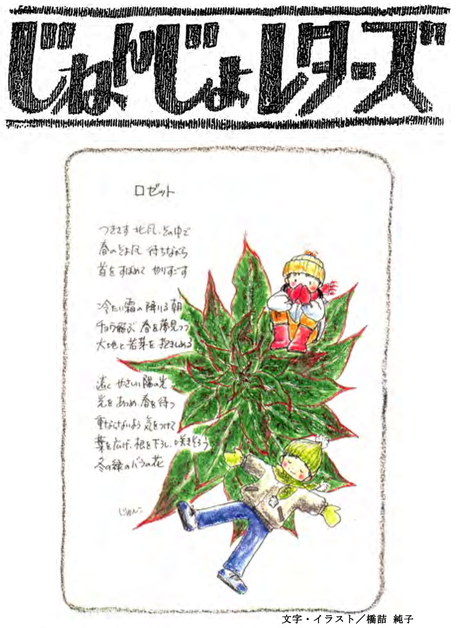
NACS-J自然観察指導員大阪連絡会の紹介

1992年6月に大阪にも自然観察指導員の連絡会を作ろうと、能勢で行われた講習会後、準備会を経て、発足（当時、大阪府自然観察指導員連絡会）。1999年5月にNACS-J自然観察指導員大阪連絡会と改称。

自然観察を通して自然とつきあうことを楽しみ、その楽しみをひろめ、活動の場となる自然を残すようにつとめることをモットーに、情報交換と交流を目的とした活動をしています。

今までに、全国一斉自然観察会、ネイチュアフィーリング研修会、海浜植物調査研修会、自然観察指導員講習会を日本自然保護協会と共催、また他団体からの呼びかけで、タンポポ調査などに参加・協力しています。

会員が身近な地域の自然に関わる活動をしています。



NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会

日本自然保護協会・機関誌「自然保護」2008年1,2月号

from 大阪 「観察会で使える手話」ミニ研修会を開催しました。

NACS-J自然観察指導員大阪連絡会　和田佳郎

2006年、大阪で開催された自然観察指導員講習会からちょうど1年が経ち、受講者とスタッフを集めての同窓会を催ねたイベントを企画しました。手話サークルでも活動している私が、大阪連絡会の会報に「観察会で使える手話」というテーマの連載記事を書いたことがきっかけで、イベントの前半に手話のミニ研修会を開催することになりました。

参加者には実際に頭の中で描いたバナナやせんべいを食べるイメージを、動作や表情で表現した後に、本当に食べたときの動作、手話の動作と比較する経験もしていただきました。さすが表現力豊かな大阪連絡会の面々！　初めてとは思えないほどユニークな表現も飛び出し、おかげで楽しい雰囲気のミニ研修会になりました。

また、参加者各々の名前の表現を含む自己紹介の仕方や挨拶の手話を説明した後、自然観察にかかわる約120の手話単語とその表現方法を集めて作成した資料を用いながら、「森」「植物」など自然界の名称をはじめ、「双眼鏡」などの道具や、色の表現などを紹介しました。

大阪府の聴覚障害者は約2万5000人。府の人口880万人に対する人口比ではわずかに0.28%ですが、この2万5000人の方たちにもぜひ自然観察の楽しさを体験してもらいたいです。今回のミニ研修会が少しでも役立てばと思っています。

【参加された具志堅繁子さんの感想】
「手話は手だけではなく、口の動き、表情、視線も含めて伝えなければ伝わらないということが、よく実感できました。手話というのはあいまいで、伝えたいという思いと分かりたいという思いが双方にないと成立しない言語なのだなとも思います。逆に伝えたいという思いがあれば、技術が低くてもよいのかな、私でもできるかなと感じました。ぜひ自分の観察会でも楽しんでいただけるような準備をして、お誘いしてみたいです」

クモ

「クモ」両手の親指を合わせて、ほかの指をばらばらに動かす。（クモが歩く様子を表す）

植物

甲側を前方に向けた左手の小指に沿って、右手の人差し指と親指を広げるように上げる。（左手が「草」、右手が「木」を表す）

環境

親指を立てた左手の下で、手のひらを下に向けた右手を左から右へ回す。（親指は「人」、右手が周囲を取り巻く環境を表す）

日本自然保護協会から紹介されている自然観察指導員連絡会について

同じ都道府県内の自然観察指導員が自主的に連絡会（かたは協議会）を結成し、地域のナチュラリストをゆるやかなネットワークで結んでいます。

自然観察指導員連絡会は、その地域の自然保護思想の普及とナチュラリスト情報のセンターともなるところです。

会員同士は、協力して地域の活動（自然観察指導員の活動）を盛り上げ、自然観察指導員はじめ市民の意識を高めていけるよう心がけることが望ましいとされています。

また、交流の場を設けるよう、活動内容として、研修会の実施や会報（大阪連絡会の場合は情報誌）などによる情報交換などがあげられます。

↑日本自然保護協会からの要請で、大阪連絡会の会員２名が図鑑執筆協力。